

<ご挨拶>

一般社団法人 日本損害保険代理業協会
会長 金子 智明



本日は、第8回日本代協コンベンションにご来場くださりまして誠に有り難うございます。また、平素は日本代協の事業活動に関し、格別のご理解とご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

本コンベンションは東京、神奈川、千葉、埼玉の若手会員と事務局メンバーによる手作りのイベントとなっております。行き届かない点多々あるかと思いますが、ご寛容のほどどうぞよろしくお願いいたします。

さて、近年世界的規模で自然災害が猛威を振るい、大きなリスク要因になっています。我が国におきましても、本年は台風、豪雨、地震等の大規模災害が相次ぎ、人的物的に甚大な被害が生じました。被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。また、厳しい環境の中で、契約者対応に尽力されている代協会員の皆さまに深く敬意を表します。

異常気象が異常ではない時代ですから、災害の最後の砦となる保険の普及を担う私たち代理店の役割はますます大きなものとなっています。同時に、事故や災害を回避し、被害を最小限に止める防災・減災の取り組みは、地域のリスクマネージャーとしての代理店の価値を高めていくことになると考えます。日本代協としてもこうした思いを形に変え、代協会員の皆さまの活動を後押ししていく所存です。

また、自然災害だけではなく、今後我が国は、人口減少と高齢者の急激な増加により経験したことがない社会構造の変化に直面します。併せて顧客本位の徹底を求める保険行政の面でも、また、ITの加速度的進化に伴う社会インフラの進展の面においても、私たち代理店を取り巻く環境は大きく変化していきます。

こうした変化は、代理店の顧客対応や経営のあり方の抜本的変革を求めるものであり、「これまで通り」では生き残れない時代になっていることは明らかです。

周囲の環境が大きく変わるわけですから、この先も顧客に支持され、選択される代理店になるためには、自らを変えて日々改善を繰り返す、昨日よりは今日、今日よりは明日の品質を引き上げていくことが重要であることは言うまでもありません。

ただし、毎日努力すれば成功するわけではありませんし、気合で乗り切れるものでもありません。いくら努力しても努力の方向性が違えば、同じところを回るだけに終わってしまいます。同時に、自身の軸が定まっていないと、努力が報われずに変化に流されてしまうこととなります。自らの事業の再定義、すなわち、誰のために、何を目的として、何を行うために存在しているのか、そうした企業存立の原点となる座標軸をしっかりと定めた上で、変化に対してしなやかに対応していくことが重要であると考えます。

こうした思いを込めて、今年のコンベンションでは、変化の時代だからこそ“変えてはいけないもの”と“変えなければならないもの”を考えてみることにしました。限られた時間ですが、2日間のプログラムを通し、何か一つでも皆さまの経営上の気づきを感じ取っていただければ幸いです。

末尾となりますが、会員の皆さまの今後ますますのご発展を祈念いたします。